

2020 年 1 月 30 日

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

東京都産後ケア事業における母親のニーズと
利用後の状況変化に関する調査
初経産での違いに関する一考察

A Survey Comparing Primiparous and Multiparous
Maternal Needs and Health Condition Changes
after Using a Postpartum Care Business in Tokyo

18MW012

田邊慧

論文要旨

【目的】東京都内の産後ケア施設を利用する母親の産後ケア事業に求めるニーズや利用後の状況変化を明らかにするとともに、それらの初経産別の特徴を比較することで、初経産それぞれに対する産後ケア事業の展開策について提言することである。

【方法】研究デザインは、調査票を用いた量的記述的研究である。東京都 23 区 26 市内において、産後ケア事業として運営を行っている全宿泊型産後ケア施設に研究協力の依頼を行った。研究協力の得られた産後ケア施設において、施設スタッフにより、データ収集期間内の全産後ケア利用者に調査票を配布した。調査票の回収は、施設内に設置した回収 BOX によって行った。調査票の内容は主に、利用者の背景、産後ケアの利用動機や利用状況、産後ケア利用後の変化で構成された。全ての変数について記述統計量を算出した後、初産婦と経産婦の利用動機や利用後の状況変化について、 χ^2 乗検定、t 検定によって比較した。分析には、SPSSver24.0 を使用した。本研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：19-A007）を受けてから行った。

【結果】宿泊型産後ケア事業として運営を行っている全 30 施設のうち、9 施設（30.0%）の協力が得られ、111 部の調査票を回収した。111 人中、初産婦は 78 人、経産婦は 33 人だった。産後ケア利用の最終的な決定動機を初経産別に比較すると、初産婦は【育児技術に関する指導をうけたい】（ $p<0.001$ ）、【母乳分泌を増やしたい】（ $p=0.011$ ）、【漠然とした不安がある】（ $p<0.001$ ）、【勧められたから】（ $p=0.036$ ）の 4 項目を動機として選んだ割合が経産婦と比べ多かった。経産婦では【家事を自分ですることが負担】（ $p=0.018$ ）、【産後の身体の回復の支援をうけたい】（ $p=0.001$ ）の 2 項目を動機として選んだ割合が初産婦に比べ多かった。また、利用後の状況変化としては、初経産ともにポジティブな変化があり、初経産別の比較では、経産婦は初産婦と比較すると【産後の身体のトラブルが改善した】（ $p=0.011$ ）、【休息ができ、疲れが改善した】（ $p=0.01$ ）、【母乳トラブルが改善した】（ $p=0.049$ ）の 3 項目でより変化を感じており、初産婦は経産婦と比較すると

【夫婦で話し合う時間が増えた】（ $p=0.024$ ）の項目でより変化を感じていた。

【結論】初経産ともに、複数のニーズによって産後ケアを必要としており、いずれも利用後にポジティブな変化を得ていた。初経産の違いによって産後ケアへのニーズは異なるものの、特に経産婦では利用後のポジティブな変化を初産婦以上に感じており、ニーズと一致したケアを受けられていたことが本研究における新たな発見であった。よって、今後は初経産別のニーズに合わせた産後ケア展開を思案することが急務であり、初産婦に限らず経産婦も平等に産後ケアを受けられるような社会的な環境整備が重要である。